

新型コロナウイルス(COVID-19)ワクチン接種後の副反応調査

施設名：鳴門山上病院

発表者：笹部 真樹 (薬剤師)

共同演者：熊野 晶子 (薬剤師)

多田 なつみ (薬剤師)

國友 一史 (医師)

東 砂央里 (薬剤師)

廣瀬 芽生 (薬剤師)

竹縄 知子 (薬剤師)

賀勢 泰子 (薬剤師)

【背景・目的】

現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大が進む中、新たに開発されたワクチンの接種が始まり、当院でも、職員、入院患者、施設入所者の2回接種を終えている。今回接種したワクチンはmRNAワクチンでHIV感染症や各種のガンなどでは、臨床試験は行われているがヒトに実用化されたのは初めてであり、どのような副反応がどのくらいの頻度で見られるかは明らかでないと考えられる。そこで、職員、患者、施設入所者を対象に副反応の有無の集計をし、解析を行った。

【方法】

職員を対象にワクチン接種後の体調の経過を1回目、2回目ともに11項目に分け経過を2週間後まで自書式で記録。回収できた1回目233人2回目229人の7項目(接種部位の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉痛、悪寒、関節痛、発熱)の有無の集計を行った。患者、施設入所者1回目118人2回目111人は看護記録から7項目を集計し、年代別に発現頻度を比較した。

【結果・考察】

今回の接種で、アナフィラキシーショック等の重度の副反応は起こらなかった。職員では、接種部位の痛みは2回とも約80%で差はなかったが、その他の項目では、2回目で大幅な増加がみられた。しかし、年齢別にみると、20代、30代の接種部位の痛み、20代の筋肉痛に関しては1回目の方が発現頻度が高かった。発熱者は、1回目ではほとんどみられなかったが2回目では職員全体で28.8%にみられ、20代36.8%、30代43.5%、40代29.3%、50代以上は20%前後の結果となり若い世代で発症頻度が高い結果となった。患者、施設入所者に関しては、発熱者は1回目11名(9.3%)、2回目16名(14.4%)であった。他の項目では、接種部位の痛み、倦怠感を訴えた人が少数であり、その他の項目に関してはいなかった。当院は、寝たきりの患者が多いため、訴えが少なく発熱者以外に関してはほとんどいなかったと考えられる。

今後は、抗体獲得率等を調査し、発症予防効果について検討していきたい。

また、職員では副反応により翌日、翌々日に勤務変更した人が24人いた。次回接種時には、あらかじめ接種後は勤務変更をしておくなど工夫が必要であると考えられる。